

# 産地戦略

実施主体 栃木県  
都道府県 栃木県  
対象地域 芳賀町  
対象品目 トマト（施設）

実施期間 令和8～12年度



## 新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

● 化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

## 目指す姿

本県の促成長期どりトマト栽培では、タバコナジラミの媒介するトマト黄化葉巻病が問題となっている。現在の主流な防除方法は、ハウス開口部への防虫ネットの展張の他、定期的な化学農薬による防除である。しかし、農薬散布による作業負担が大きいことや、同一系統の連続使用による抵抗性の発達も懸念されている。

近年、他産地・多品目では、天敵を活用した総合的病害虫防除技術体系の確立がされており、トマトにおいては、コナジラミ類を捕食する「タバコカスミカメ」の導入が開始されている。そのため、天敵製剤タバコカスミカメの活用による、農薬使用量の削減や生産者の労力の負担軽減を目指す。

## 現在の栽培体系

栽培マニュアルに記載のとおり



## グリーンな栽培体系

栽培マニュアルに記載のとおり

## グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R7	目標R12	備考
（参考）対象品目の作付面積（ha）	3.4 ▶	3.4	
グリーンな栽培体系の取組面積（ha）	0.3 ▶	1	
環境にやさしい栽培技術の取組面積（ha）	0.3 ▶	1	
省力化に資する技術の取組面積（ha）	0.3 ▶	1	

## 環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

### 〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境 省力	ハウス開口部における防虫ネットの展張の他、化学農薬中心の防除	天敵資材を活用したIPM	農薬の使用回数の削減 薬剤抵抗性の発生リスク軽減

### 〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境 省力	化学農薬の使用回数（回）	15 ▶	10	使用回数に制限がある化学農薬の使用回数低減を目指す。

\* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）

\* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

## グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

- ・関係機関と連携し、講習会や現地検討会を通じて、技術の周知や推進を図る。
- ・導入志向者、導入生産者に対し、関係機関と連携して技術指導を行う。

## 関係者の役割

関係者名	振興事務所	農業協同組合	生産者
役割	技術指導、普及推進	当該技術の生産部会への波及	当該技術の実証と導入

## その他